

資料1

第3次佐賀市環境基本計画の策定について 【中間整理案】

令和6年5月30日

本日の説明事項

1. 環境課題及び策定の方向性の整理方法
2. 佐賀市環境基本計画（第2次）の概要
3. 現行計画の検証
 - ・基本目標1 地球温暖化を防止するまち（低炭素社会の構築）
 - ・基本目標2 資源を活かす循環のまち（循環型社会の構築）
 - ・基本目標3 水とみどりがあふれるまち（自然共生型社会の構築）
 - ・基本目標4 安全で快適な生活環境のまち（生活環境の向上）
4. 現行計画策定後の状況の変化
5. 環境に関する市民・事業者の意識
6. 次期計画の方向性の検討
 - ・意見を頂きたい事項
7. 今後のスケジュール

1. 環境課題及び策定の方向性の整理方法

第3次計画策定に向けての課題抽出及び第3次計画の方向性の検討を行うため、現行の第2次佐賀市環境基本計画の検証を行うとともに、国や県の社会情勢・環境分野に関する動きや本市の環境に関する市民・事業者の意識といった、現行計画策定後の状況の変化について整理します。

基礎情報の整理

現行計画の検証

国や県の社会情勢・環境分野に関する動き

環境に関する市民・事業者の意識

第3次計画の方向性の検討

2. 佐賀市環境基本計画（第2次）の概要

環境将来像

『守り、育み、未来をつくる トンボ飛び交うまち さが』

表 施策体系と成果指標の一覧

基本目標	環境項目	成果指標
1 地球温暖化を防止するまち (低炭素社会の構築)	1-1 地球温暖化対策の推進	・省エネ等の環境問題を意識し、取り組んでいる市民の割合
	1-2 再生可能エネルギーの普及促進	・温室効果ガス排出量削減率（2013年度比）
2 資源を活かす循環のまち (循環型社会の構築)	2-1 3Rの推進啓発	・1人1日当たりごみ排出量
	2-2 ごみの適正処理	・リサイクル率
3 水とみどりがあふれるまち (自然共生型社会の構築)	3-1 清らかな水辺の確保	・市街地のみどりが増えて景観が良くなったと感じる市民の割合
	3-2 豊かなみどりの確保	・市民1人当たりの都市公園面積
	3-3 生物多様性の保全	・景観賞表彰件数（2021年度をもって一旦終了）
	3-4 自然環境と調和した都市づくり	・屋外広告物許可割合
4 安全で快適な生活環境のまち (生活環境の向上)	4-1 身近な生活環境の保全	・公害苦情（騒音・振動・悪臭等）件数
	4-2 生活排水の対策	・生活環境苦情件数
	4-3 地域環境の保全	・鉛給水管更新率
		・下水道接続率

3. 現行計画の検証

◆基本目標 1

地球温暖化を防止するまち（低炭素社会の構築）

1-1 地球温暖化対策の推進

1-2 再生可能エネルギーの普及促進

成果指標	基準値 (基準年度)	2022年度 最新値 (目標値)	目標値 (2024年度)	指標 評価	市の主な取り組み/ 成果 (2022年度実績)
省エネ等の環境問題を意識し、 取り組んでいる市民の割合	78.8% (2013年度)	75.3% (81.3%)	85.0%	×	・ 出前講座の開催；開催数3回、市民35名 (環境配慮行動やエコドライブについて説明) ・ 環境月間に市民ホールでパネル展を開催 ・ ゼロカーボンシティさがし推進パートナー 向け脱炭素経営セミナーの開催及び情報提供
温室効果ガス排出量削減率 (2013年度比)	12.2% (2019年度)	33.2% (15.6%)	17.9%	◎	・ アイドリングストップバス；3台導入 など

※指標評価の凡例：◎…2024年度の目標値を達成 ○…年度目標（2022年度）を達成もしくは基準値から改善 ×…基準値から後退

現状

- 指標「省エネ等の環境問題を意識し、取り組んでいる市民の割合」は、基準値を下回っている
- 太陽光発電システムを導入している市民の割合 18.1%（市民アンケート）
- 太陽光発電システムを導入している事業者の割合 17.9%（事業者アンケート）

課題

- 環境行動にインセンティブを与えるような動機付けの施策の展開
 - モビリティサービス（MaaS）の推進、自家用車から公共交通やシェアリングサービスへの行動変容の推進
 - 脱炭素経営に向けた意識醸成
 - 太陽光電力、水力、地中熱などの自家消費や蓄電池の推進
 - 木材利用、地域産材の活用の推進
 - スマート農業、スマート林業導入による業務の省力化
- ★農産物の環境負荷低減の取組「見える化」本格運用開始（R6.3.1）

農産物の環境負荷低減の取組の「見える化」

令和6年3月
農林水産省

- **みどりの食料システム戦略**に基づき、消費者の選択に資する環境負荷低減の取組の「見える化」を進めます。
- 化学肥料・化学農薬や化石燃料の使用低減、バイオ炭の施用、水田の水管理などの栽培情報を用い、定量的に温室効果ガスの排出と吸収を算定し、削減への貢献の度合いに応じ星の数で分かりやすく表示します。
- 米については、**生物多様性保全**の取組の得点に応じて評価し、温室効果ガスの削減貢献と合わせて等級表示できます。
- 生産者・事業者に対する算定支援や販売資材の提供を引き続き実施します。



温室効果ガス削減への貢献

栽培情報を用い、生産時の温室効果ガス排出量を試算し、地域の慣行栽培と比較した削減貢献率を算定。

$$100\% - \frac{\text{対象生産者の栽培方法での排出量(品目別)}}{\text{地域又は県の標準的栽培での排出量(品目別)}} = \text{削減貢献率(\%)}$$

排出(農薬、肥料、燃料等) - 吸収(バイオ炭等)

★ : 削減貢献率5%以上
★★ : 削減貢献率10%以上
★★★ : 削減貢献率20%以上



※上記の商標は商標出願中です

対象品目：23品目 米、トマト、キュウリ、ミニトマト、ナス、ほうれん草、白ネギ、玉ねぎ、白菜、ばれいしょ、かんしょ、キャベツ、レタス、大根、にんじん、アスパラガス、リンゴ、みかん、ぶどう、日本なし、もも、いちご、茶

生物多様性保全への配慮

※米に限る

<取組一覧>

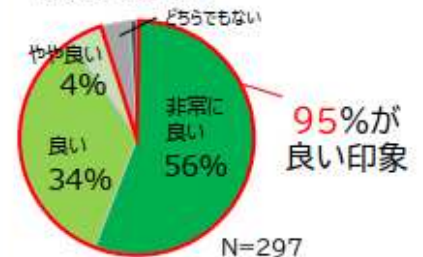
化学農薬・化学肥料の不使用	2点
化学農薬・化学肥料の低減(5割以上10割未満)	1点
冬期湛水	1点
中干し延長または中止	1点
江の設置等	1点
魚類の保護	1点
畦畔管理	1点

★ : 取組の得点1点
★★ : 取組の得点2点
★★★ : 取組の得点3点以上

消費者へのわかりやすい表示

(令和4年度・令和5年度 実証より)

店舗への印象



全国のべ700か所以上で販売
(令和6年2月末時点)

3. 現行計画の検証

◆基本目標2

資源を活かす循環のまち（循環型社会の構築）

2-1 3Rの推進啓発

2-2 ごみの適正処理

指標	基準値 (2013年度)	2022年度 最新値 (目標値)	目標値 (2024年度)	指標 評価	市の主な取り組み/ 成果 (2022年度実績)
1人1日当たりごみ排出量	1,048g	961g (981g)	938g	○	<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみ堆肥化等の促進： 堆肥化サポート件数253件、 家庭用生ごみ処理容器等購入補助113件 ・エコプラザの各種講座やイベント開催； 開催数107回、参加者2,603名 ・民間リサイクル（剪定枝等）の促進： 許可業者受入量641t など
リサイクル率	17.4%	18.5% (20.0%)	20.5%	○	

※指標評価の凡例：◎…2024年度の目標値を達成 ○…年度目標（2022年度）を達成もしくは基準値から改善 ×…基準値から後退

現状

- 市の1人1日当たりのごみ排出量は減少傾向にあるが、県平均を上回っている（R4年度 佐賀県平均 870g/人・日）
- 家庭や事業所から排出される燃えるごみには、多くの食品ロスやリサイクル可能な紙類が含まれている。
- リサイクル率は基準値から改善したものの、近年は横ばい傾向が続いている。

課題

- 民間リユースなど、「捨てる」以外の選択肢の提供、もったいない意識の啓発
- 分別できる拠点場所の設置、プラスチックの資源循環の促進
- 3Rの推進、新たな再生資源化の検討

3. 現行計画の検証

◆基本目標3

水とみどりがあふれるまち（自然共生型社会の構築）

- 3-1 清らかな水辺の確保
- 3-2 豊かなみどりの確保
- 3-3 生物多様性の保全
- 3-4 自然環境と調和した都市づくり

成果指標	基準値 (基準年度)	2022年度 最新値 (目標値)	目標値 (2024年度)	指標 評価	市の主な取り組み/ 成果 (2022年度実績)
市街地のみどりが増えて景観が良くなったと感じる市民の割合	57.7% (2019年度)	55.7% (59.2%)	60.2%	×	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校や公民館等の公共施設の緑化； ・ 公共施設への花苗を489件配布 ・ 街路の整備完了区間に「ヒトツバタゴ（別名：ナンジャモンジャ）」の木を11本植樹
市民1人当たりの都市公園面積	7.2㎡ (2013年度)	7.95㎡ (8.1㎡)	8.3㎡	○	
景観賞表彰件数	68件 (2013年度)	101件 (2021年度)	—	—	
屋外広告物許可割合	26.9% (2013年度)	86.3% (92.4%)	100%	○	

※指標評価の凡例：◎…2024年度の目標値を達成 ○…年度目標（2022年度）を達成もしくは基準値から改善 ×…基準値から後退

現状

- クリークや干潟等に希少な生態系が残る個性的な自然環境を有する
- 「環境を守る市民意識の高さ」について重要と答えた市民の割合 44.0%（市民アンケート）
- 「環境を守る市民意識の高さ」について満足と答えた市民の割合 3.1%（市民アンケート）

課題

- 市民の世代に応じた環境学習の機会の提供、生物多様性に関する理解の促進
- 森林所有者への適切な森林管理の促進
- 森林環境教育や森林浴セラピー体験での森林活用
- みどりを育てることによる市民意識の向上や都市緑化の推進

3. 現行計画の検証

◆基本目標4

安全で快適な生活環境のまち（生活環境の向上）

- 4-1 身近な生活環境の保全
- 4-2 生活排水の対策
- 4-3 地域環境の保全

成果指標	基準値 (基準年度)	2022年度 最新値 (目標値)	目標値 (2024年度)	指標 評価	市の主な取り組み/ 成果 (2022年度実績)
公害苦情（騒音・振動・悪臭等）件数	136件 (2019年度)	167件 (133件)	130件	×	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外来生物の被害防止への対応；アライグマ防除：127頭 ・ 危険な空き家の解体費助成；18件 ・ ホームページにて水質検査結果の公表；毎月1回 ・ 大気、水質、騒音、振動等の常時監視・測定
生活環境苦情件数	347件 (2019年度)	659件 (319件)	300件	×	
鉛給水管更新率	45.0% (2013年度)	93.3% (97.2%)	100%	○	
下水道接続率	87.3% (2013年度)	92.7% (93.1%)	93.4%	○	

※指標評価の凡例：◎…2024年度の目標値を達成 ○…年度目標（2022年度）を達成もしくは基準値から改善 ×…基準値から後退

現状

- アライグマ及び空き家に関する相談件数が増加
- 水質関係（油流出や魚へい死）の相談件数が増加

課題

- 市民と協働した、外来生物への対応強化
- ペットの適正飼育の啓発、安心してペットを飼うことができる環境づくり（高齢化・災害時）の徹底
- 大気、水質、騒音、振動等の常時監視・測定の継続

4. 現行計画策定後の状況の変化

※国…オレンジ、佐賀市…黄緑

▶ 海洋プラスチック・マイクロプラスチック問題

プラスチック資源循環戦略 (2019年5月策定)	プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律 (2022年4月施行)
<ul style="list-style-type: none"> ・3Rに加えて Renewable（再生利用・バイオマスプラスチック）を推進 ・清掃活動推進によるプラスチックの海洋流出防止 ・プラスチック資源の効果的な分別回収 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・製造事業者等が努めるべき環境配慮設計に関する指針を策定し、指針に適合した設計であることを認定する仕組みを設計 ・市町村のプラスチック使用製品廃棄物の分別収集及び再商品化措置の追加

▶ 生物多様性の保全(外来生物対策)

生物多様性国家戦略 2023-2030	グリーンインフラ推進戦略2023
<ol style="list-style-type: none"> 1. 生態系の健全性の回復 2. 自然を活用した社会課題の解決 3. 事業活動への生物多様性・自然資本の統合 4. 生活・消費活動における生物多様性との再統合 5. 生物多様性に係る取組を支える基盤整備と国際連携の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資本整備や土地利用において、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進める ・気候変動対策と生物多様性保全を両立させるグリーンインフラの取組を進めることが必要

▶ 脱炭素社会に向けた取り組みー「ゼロカーボンシティさがし」の表明

地球温暖化対策計画（改定）	第3次佐賀市地球温暖化対策実行計画
2030年度削減目標：2013年度比46%、さらに50%の高みに向け挑戦	現在、策定中

5. 環境に関する市民・事業者の意識

アンケート調査の概要

1. 調査の目的

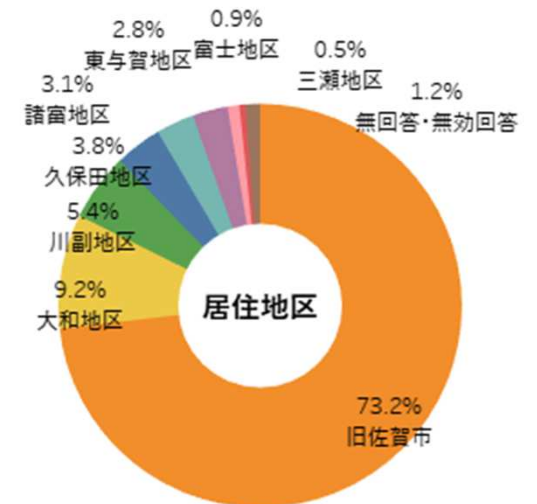
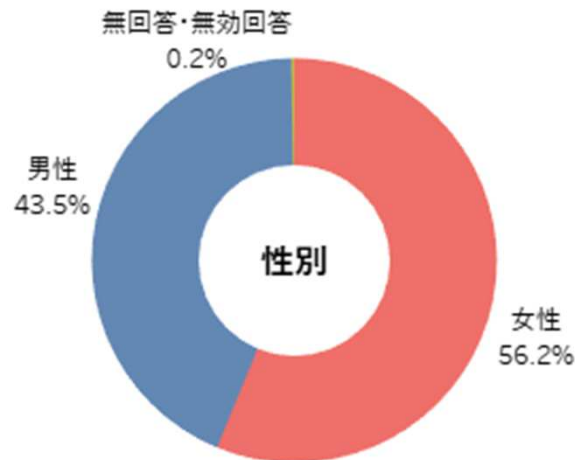
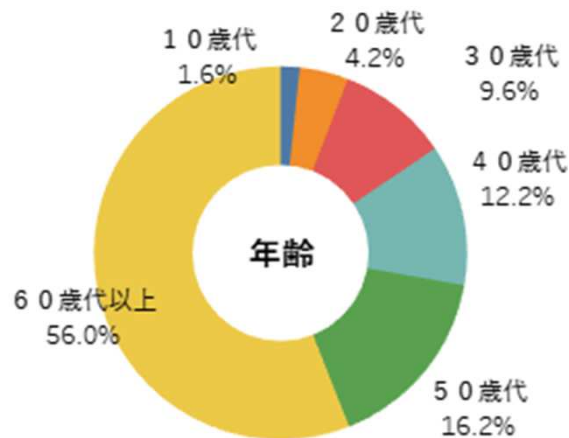
市民及び市内事業所の皆様の環境に関するニーズ等を把握し、計画に反映させていくため

2. 調査方法

市民用は市内居住の18歳以上の方の中から1,300名を抽出し、事業所用は市内事業所から無作為に300事業所を抽出し、郵送によってアンケート用紙を配布した。回収方法について、郵送もしくはWEBにより行った。

		市民用	事業者用
配布数		1,300	300
回収数	紙	334	78
	WEB	91	18
	合計	425	96
回収率		32.7%	32.0%
調査期間		3週間	3週間

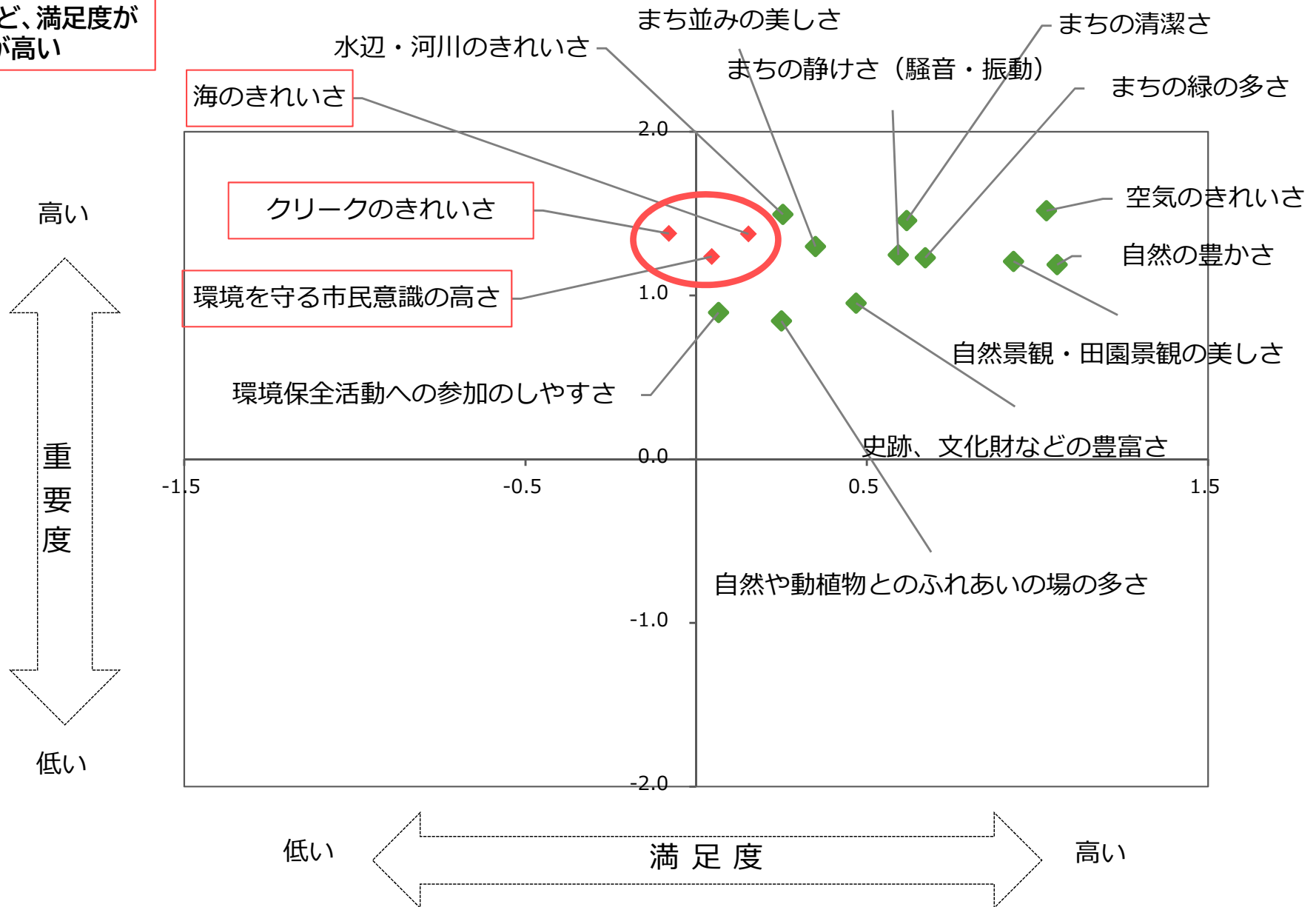
〈市民アンケート回答者の属性〉



5. 環境に関する市民・事業者の意識

問2 佐賀市の環境についての現在の満足度及び今後の重要度

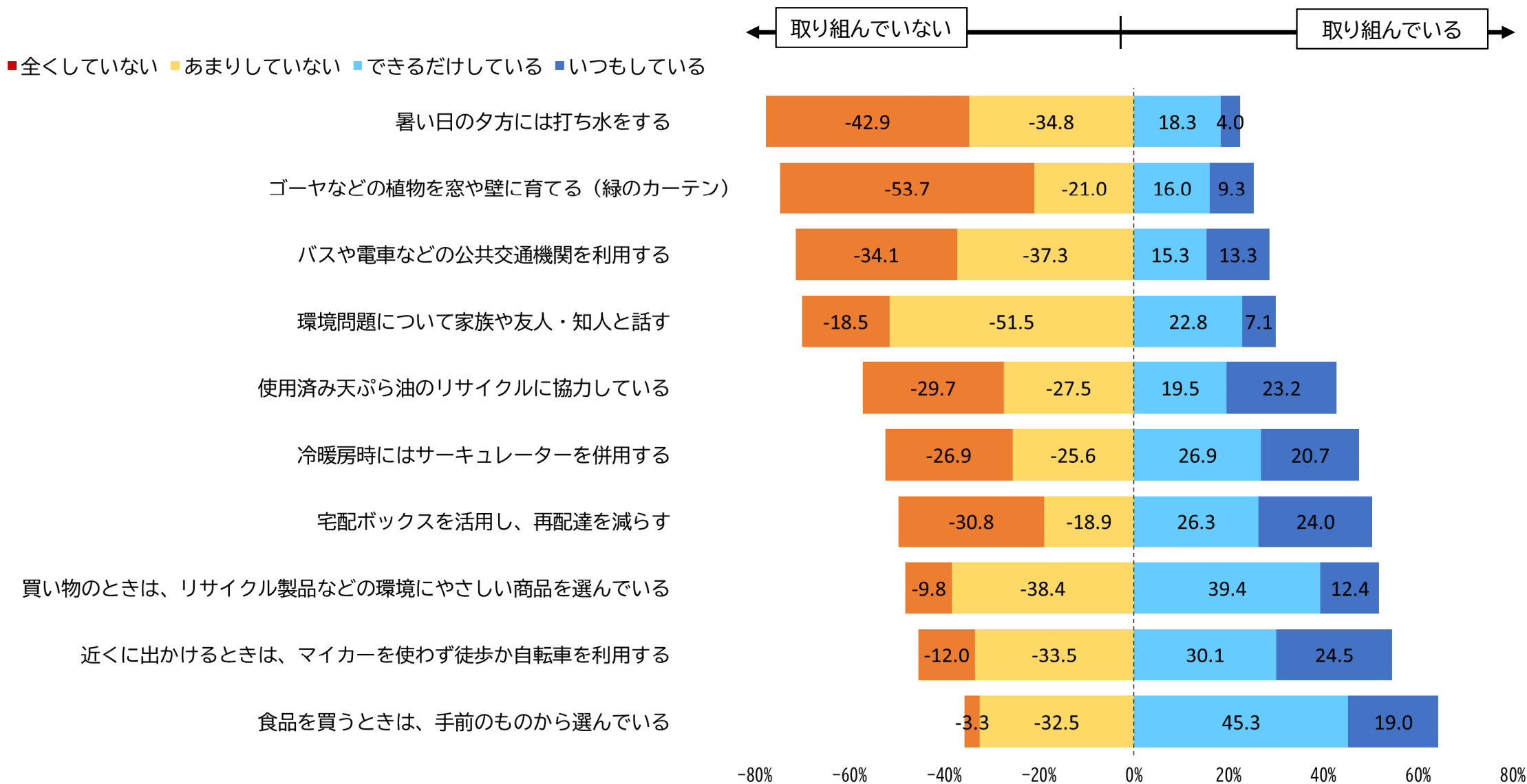
左上に行くほど、満足度が低く、重要度が高い



5. 環境に関する市民・事業者の意識

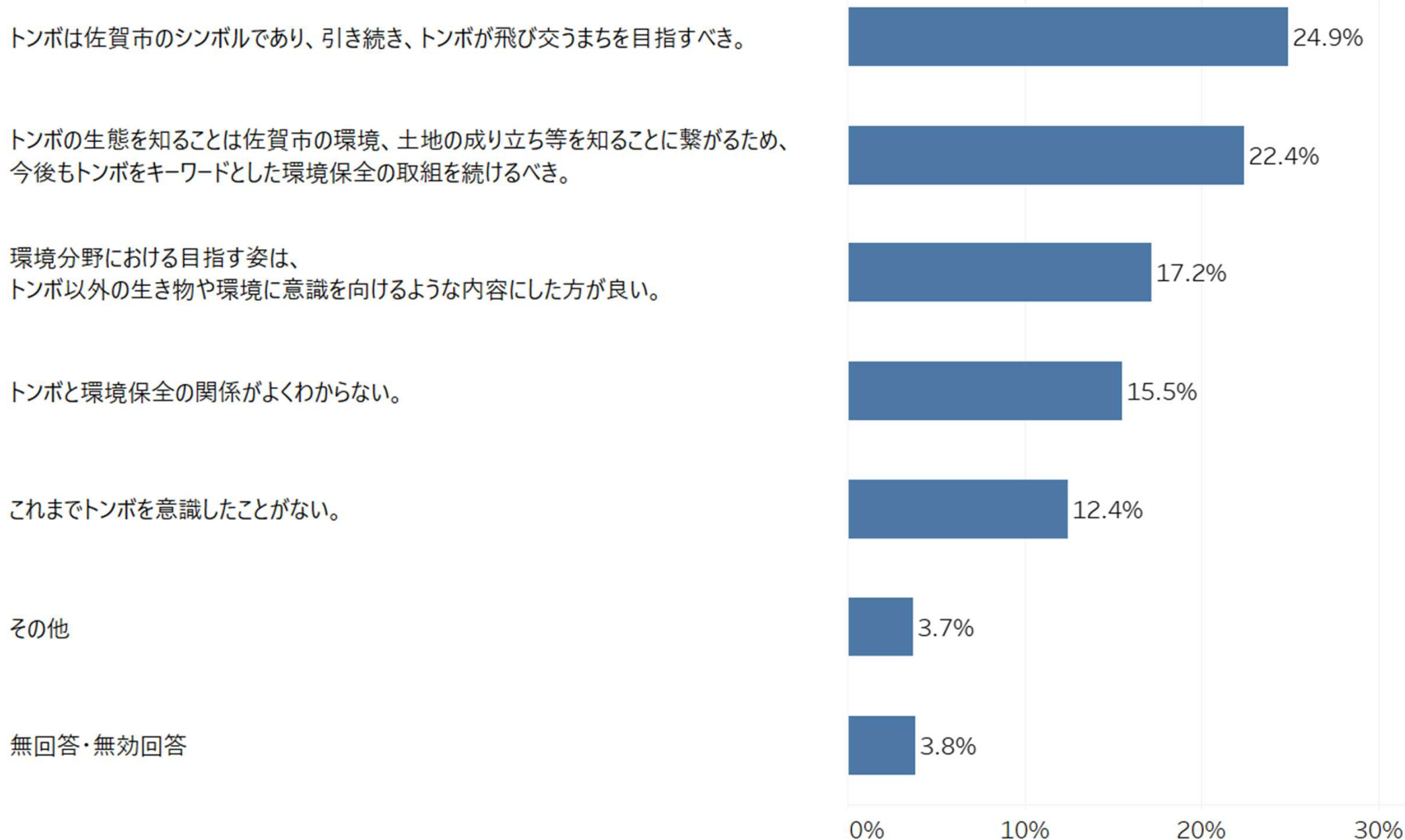
市民

問5 環境に配慮した取組状況(取り組みが少ない項目)



5. 環境に関する市民・事業者の意識

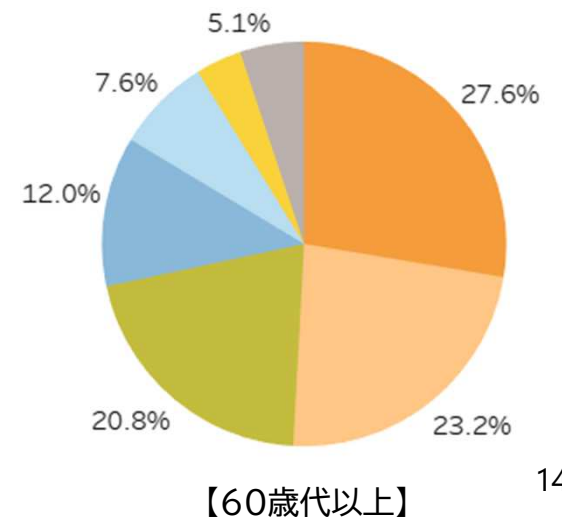
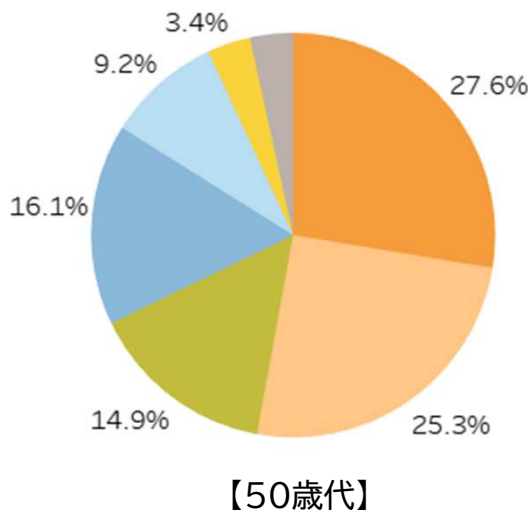
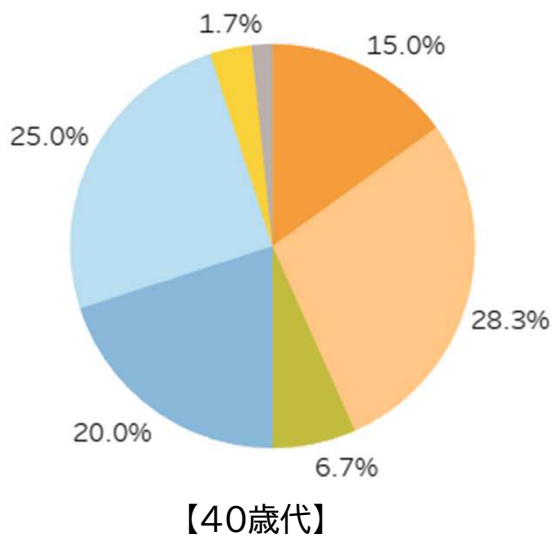
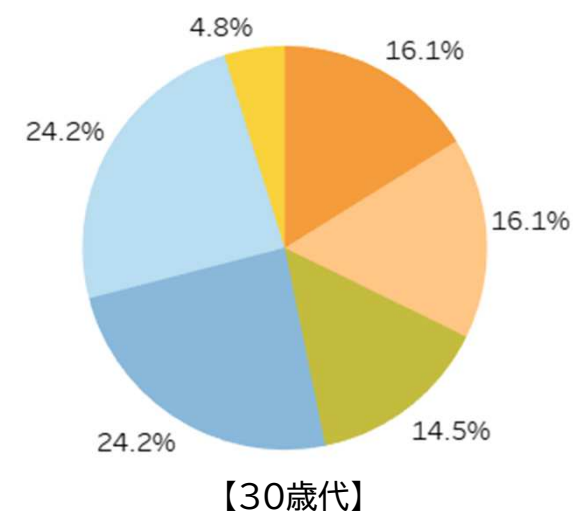
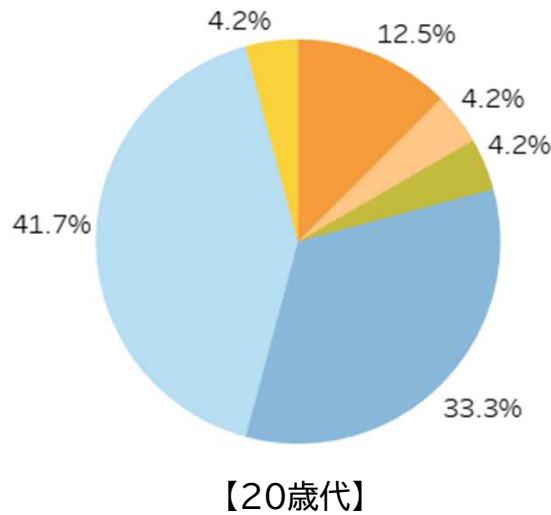
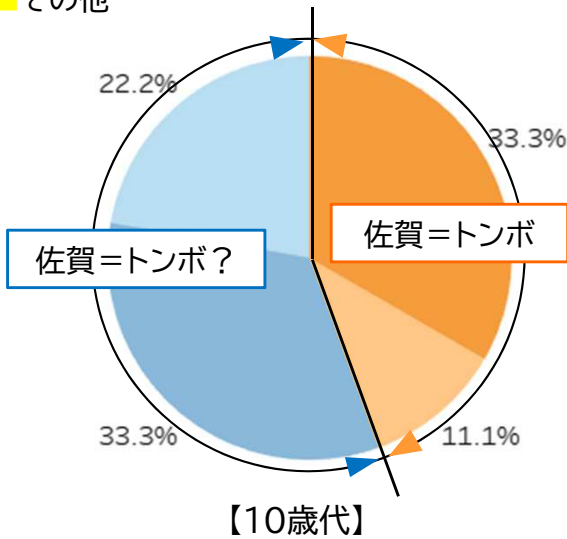
問8 佐賀市の環境とトンボに対する、自身のイメージや考えについて



5. 環境に関する市民・事業者の意識

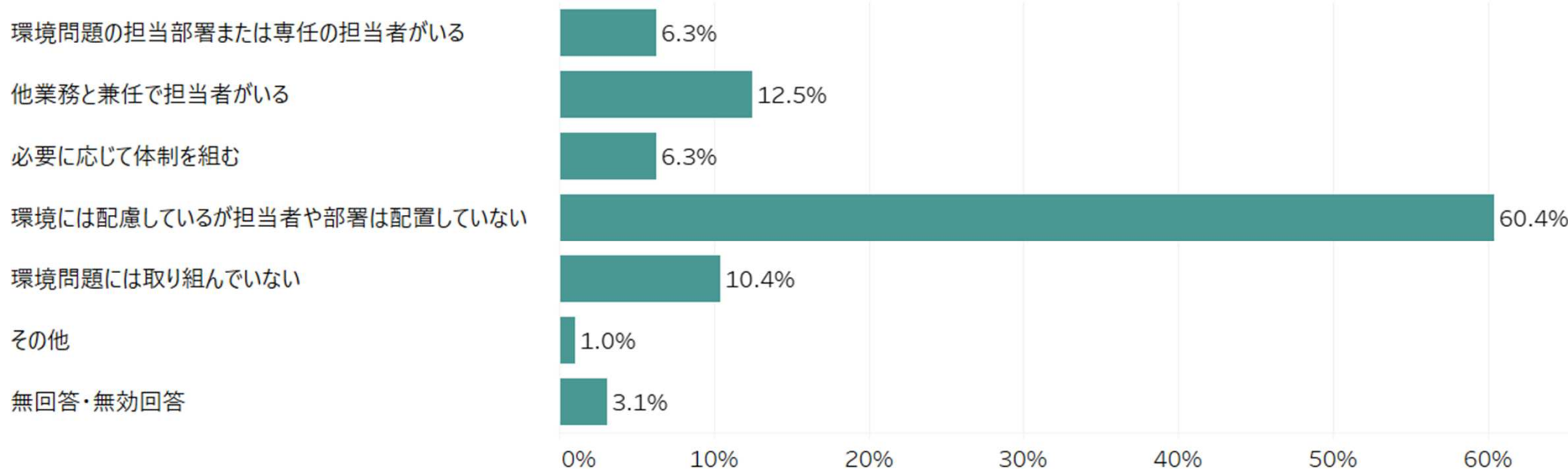
問8 佐賀市の環境とトンボに対する、自身のイメージや考えについて(年代別)

- トンボは佐賀市のシンボルであり、引き続き、トンボが飛び交うまちを目指すべき。
- トンボの生態を知ることは佐賀市の環境、土地の成り立ち等を知ることにつながるため、今後もトンボをキーワードとした環境保全の取組を続けるべき。
- 環境分野における目指す姿は、トンボ以外の生き物や環境に意識を向けるような内容にした方が良い。
- トンボと環境保全の関係がよくわからない。
- これまでトンボを意識したことがない。
- その他

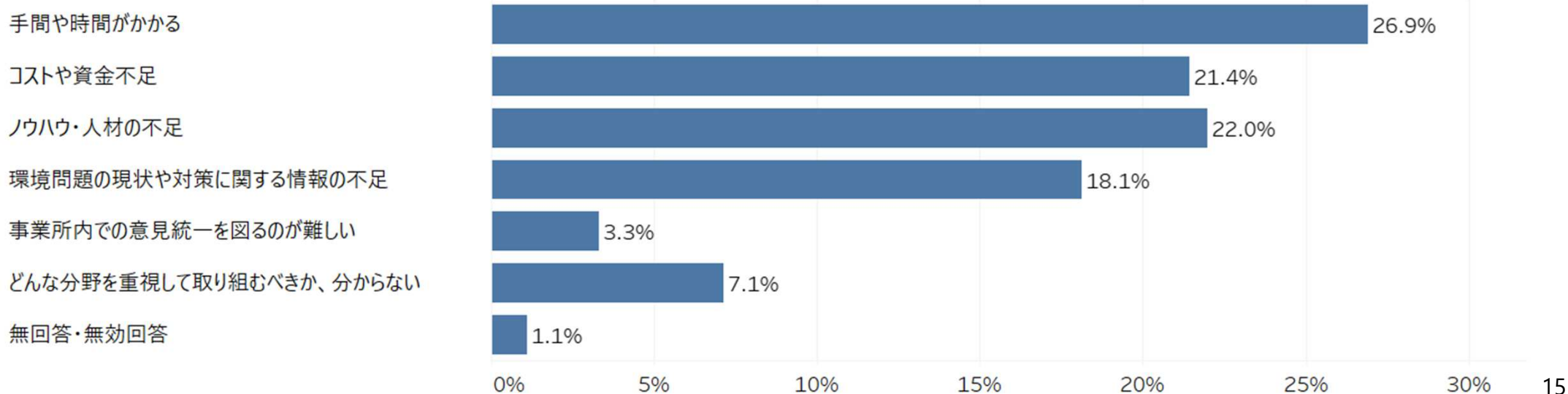


5. 環境に関する市民・事業者の意識

問4 環境問題に取り組む体制



問5 環境問題に取り組むうえでの課題

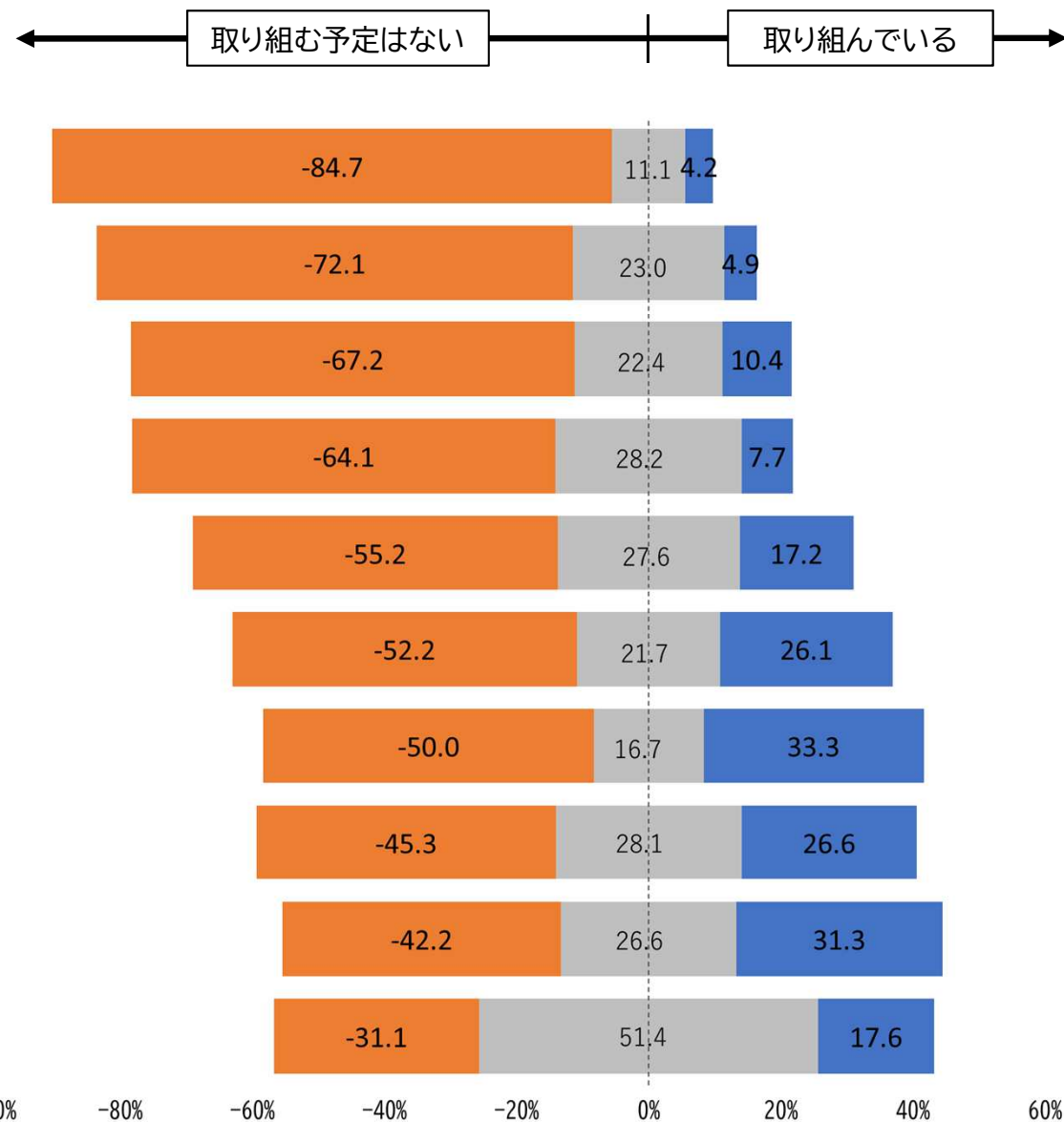


5. 環境に関する市民・事業者の意識

事業者

問6 環境に配慮した取組状況(取り組みが少ない項目)

■ 取り組む予定はない
 ■ 取組を検討中
 ■ すでに取り組んでいる



6. 次期計画の方向性の検討

環境施策の体系（イメージ）

基本目標	環境項目	施策検討の方向性
脱炭素が暮らしや地域に浸透しているまち	1-1 脱炭素型ライフスタイルの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・市民・事業者の脱炭素推進 ※デコ活の普及拡大 ・低炭素型の交通環境整備
	1-2 脱炭素イノベーション創出・脱炭素経営の推進	
	1-3 再生可能エネルギーの普及促進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域への再エネルギー等の普及促進 ・太陽光・蓄電池等の利用の拡大
	1-4 気候変動への適応	<ul style="list-style-type: none"> ・県及び事業者等と連携した適応策の展開
持続可能な循環の仕組みで、成長し続けるまち	2-1 3Rの推進 (プラスチックの減量化・食品ロス削減)	<ul style="list-style-type: none"> ・3R（家庭系ごみ・事業系ごみ）の推進、意識の啓発 ・プラスチックの資源循環及び食品ロス削減対策
	2-2 ごみの適正処理	<ul style="list-style-type: none"> ・処理施設の安定的運用及び適正な収集体制の維持
水とみどりにあふれ、心地よさを実感できるまち	3-1 清らかな水辺の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な主体による水辺空間の整備 ・河川等の機能保全、清掃活動の促進
	3-2 豊かなみどりの確保（農用地の保全）	<ul style="list-style-type: none"> ・森林・農用地・緑地の創造と保全
	3-3 生物多様性の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・健全な生態系の保全 ・自然と触れ合える機会の創出 ・外来生物対策
	3-4 自然と調和したまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・都市景観の形成、環境の保全
安全で快適な生活環境のまち	4-1 身近な生活環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家対策、ペット・アライグマ等への対応
	4-2 生活排水の対策	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な水道水の供給、下水・し尿の処理
	4-3 地域環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・公害・化学物質等発生の防止

－意見を頂きたい事項－

1 市が重点的に取り組むべき環境要素（P11）

重要度が高いが満足度が比較的低い：「環境を守る市民意識の高さ」「海のきれいさ」「クリークのきれいさ」

2 市民が取り組むべき環境に配慮した取組（P12）

取り組みが少ない項目（アンケート結果）：

「暑い日の夕方には打ち水をする」「環境問題について家族や友人・知人と話す」「バスや電車などの公共交通機関を利用する」
「ゴーヤなどの植物を窓や壁に育てる（緑のカーテン）」「使用済み天ぷら油のリサイクルに協力している」
「買い物ときは、リサイクル製品などの環境にやさしい商品を選んでいる」「近くに出かけるときは、マイカーを使わず徒歩か自転車を利用する」
「冷暖房時にはサーキュレーターを併用する」「宅配ボックスを活用し、再配達を減らす」「食品を買うときは、手前のものから選んでいる

3 事業者による環境保全の取組拡大に向けて（P15, 16）

環境問題に取り組む体制（アンケート結果）：

- 「環境には配慮しているが担当者や部署は配置していない」60.4%
- 「他業務と兼任で担当者がある」12.5%
- 「環境問題には取り組んでいない」10.4%
- 「環境問題の担当部署または専任の担当者がある」6.3%
- 「必要に応じて体制を組む」6.3%



4 第3次計画における環境将来像の考え方（P13, 14）

- ・佐賀市の環境とトンボとの関係に対する市民認識について
- ・環境将来像におけるトンボの位置づけについて

7. 今後のスケジュール

部 会	計 画	分科会 R6.7~10		
		第1回 (7月)	第2回	第3回
自然・生活環境、 廃棄物等 検討部会	環境基本計画	【計画の第1章・第2章】 <ul style="list-style-type: none"> 計画の基本的事項 環境将来像 施策体系 	【計画の第3章】 基本目標 <ul style="list-style-type: none"> 持続可能な循環の仕組みで、成長し続けるまち 水とみどりにあふれ、心地よさを実感できるまち 	【計画の第3章・第4章】 基本目標 <ul style="list-style-type: none"> 安全で快適な生活環境のまち 横断的事項 <ul style="list-style-type: none"> 市民・企業等との協働体制 人材育成など 推進体制
	一般廃棄物 処理基本計画	<ul style="list-style-type: none"> 現行計画の検証 現行計画策定後の状況変化 次期計画策定ポイントの整理 	○ごみ処理基本計画 <ul style="list-style-type: none"> ごみ処理の現状 ごみ処理の目標 ○生活排水処理基本計画 <ul style="list-style-type: none"> 生活排水処理の現状 生活排水処理の目標 	○ごみ処理基本計画 <ul style="list-style-type: none"> 基本施策
地球温暖化対策 等検討部会	環境基本計画	【計画の第3章】 基本目標 脱炭素が暮らしや地域に浸透しているまち		
	地球温暖化対策 実行計画 (区域施策編・ 事務事業編)	【計画の第1章】 <ul style="list-style-type: none"> 2050年佐賀市の将来ビジョン 温室効果ガスの排出削減目標 脱炭素ロードマップ 	【計画の第2章・第3章】 <ul style="list-style-type: none"> 計画策定の背景・意義 緩和策 	【計画の第3章】 <ul style="list-style-type: none"> 適応策 市役所の取組

佐賀市環境審議会委員名簿(部会編成)

自然・生活環境、廃棄物等検討部会		地球温暖化対策等検討部会	
機能物質化学科	おおと けいすけ 大渡 啓介	物質環境、有機環境化学	おかじま としや 岡島 俊哉
農業環境工学	たなか むねひろ 田中 宗浩	生物化学	せき きよひこ 関 清彦
佐賀市自治会協議会 会長	おぎはら すなお 小城原 直	佐賀市環境保健推進協議会 会計	くさば まちこ 草場 真智子
さが環境推進センター	ふじい りつこ 藤井 律子	佐賀県地球温暖化防止活動 推進センター 事務局次長	まつお まりこ 松尾 真理子
公募委員	ありもり あきこ 有森 明子	公募委員	たかはし ともこ 高橋 朋子
佐賀女子短期大学付属佐賀女子高 等学校 教諭	おおいし ひろき 大石 寛貴	佐賀市立小中学校校長会 (久保泉小学校校長)	なかむら かよ 中村 佳代
朝日テクノ株式会社	なかはら まさと 中原 正登	株式会社 中野建設 管理本部企画室 副主任	くまはた みずえ 熊畑 瑞枝
株式会社 スーパーモリナガ 管理本部 取締役管理本部長	しまざき たけし 島崎 健	株式会社 日産サティオ佐賀 代表取締役社長	まつもと こうじ 松本 考司
佐賀商工会議所 女性会 理事	たたら 多々良 たまえ		
			
第1回分科会開催予定日 : 7月30日(火)		第1回分科会開催予定日 : 7月19日(金)	

－資料－ 第3次環境基本計画の構成案（前回資料より）

市長メッセージ

第1章 新たな計画の策定にあたって

第1節 計画策定の趣旨

第2節 計画の位置付け

第3節 策定の背景・課題

1. 佐賀市の概況

2. 脱炭素社会に関する状況

3. 循環型社会に関する状況

4. 自然共生社会に関する状況

5. 生活環境に関する状況

第4節 市民の意識と行動（アンケート総括）

第2章 佐賀市が目指す将来の環境の姿

第1節 環境将来像

第2節 地域ごと及び主体ごとの将来の姿

第3節 2034年の佐賀市のイメージ

第3章 環境将来像の実現のための取組

第1節 環境施策の体系

第2節 環境施策の展開

・脱炭素社会の実現

・循環型社会の構築

・生物多様性、自然環境

・生活環境

第4章 計画の実効性を高める横断的推進

第1節 市民・企業等との協働体制

第2節 人材育成・行動変容の促進

・環境教育の充実

第3節 推進体制

資料編

—資料— 第3次地球温暖化対策実行計画の構成案（前回資料より）

第1章 「ゼロカーボンシティさがし」が目指す姿

1 2050年佐賀市の将来ビジョン	➤ 各分野（自動車・家庭等）の目指すべき姿
2 温室効果ガスの排出削減目標	➤ 2030年度の排出削減目標 ➤ 2050年度の排出削減目標・脱炭素シナリオ
3 脱炭素ロードマップ	➤ 2050年度を見据えた取組の工程（大枠）

第2章 計画策定の背景・意義

1 地球温暖化の現状及び社会的動向	➤ 深刻化する気候変動の影響 ➤ カーボンニュートラルの実現に向けた国内外の動向
2 計画の基本的事項	➤ 計画の期間 ➤ 基準年度・目標年度 ➤ 対象とする温室効果ガス
3 佐賀市の地域特性	➤ 環境・経済・社会に関する市の現状

第3章 「ゼロカーボンシティさがし」の実現に向けた取組

1 佐賀市域における取組（区域施策編）	➤ 緩和策に関する取組 ➤ 適応策に関する取組（農林水産業、自然生態系等）
2 佐賀市役所における取組（事務事業編）	➤ 市役所の事務事業における排出削減の取組